

三井住友建設が23/3期業績予想を修正一格付へ下押し圧力加わる、大型建築工事の進捗を注視

以下は、三井住友建設株式会社（証券コード：1821）が23/3期業績予想の修正を公表したことについての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は本日23/3期業績予想の修正を公表した。修正後の営業利益は75億円（前回予想：160億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は20億円（同：80億円）である。これは前期に多額の工事損失引当金を計上した国内大型建築工事において、鋼材を中心とした資材価格の上昇や施工計画の見直しなどにもない新たに約62億円の損失を計上することが主要因である。
- (2) 当該工事の影響により利益回復がJCRの想定通りに進んでおらず、格付へ下押し圧力が加わっている。現状では本修正を以って格付および見通しを変更する予定はないが、当該工事における追加損失の発生などにより本格的に利益回復が進まない場合や財務基盤の一段の悪化が懸念される場合には、格付にネガティブな影響を与える。また、施主から多額の損害賠償請求を受けているマンション杭工事不具合問題の係争の帰すも注視が必要である。

（担当）窪田 幹也・下田 泰弘

【参考】

発行体：三井住友建設株式会社

長期発行体格付：A- 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル